

原子力談話会

創刊号 (1954.9.10)

— 原子力談話会発行 —

原子力国内情報

- 通産省工業技術院は、明30年度の予算に、原子力平和利用研究費として、5億円を要求した。内容は、補助金、委託研究費、海外調査費、調査研究費、運営費等である。
- 一方、文部省では、基礎研究は文部省のなわ張りであるとして、来年度科学研究費の特別研究費に、重要研究課題として原子核の研究に重点的に予算を配分することになる模様。
- 東京工大では来年度予算に、原子核工学講座の新設を申請した(武田教授はこのことを知らなかつたとのこと)
- 電気学会内部に原子力委員会が設けられた。(電気会社につなかりの多いボスが中心の模様)
- グラスゴーの学界に出席し、その後欧米の原子炉等も見て来た菊池正士氏は9月12日帰朝の予定
- 元資源調査会の高橋東氏が中心になって、原子動力懇談会なるものがつくられたとのこと(内容不明)。

各会の動き

○ 8月26日、通産省予算打合せ構造部会。先にお知らせした研究班の問題は、朝永委員の努力などもあつて、慎重考慮中でまだ決定していない。但し他の部会では相当具体的に進んでいる。

○、例えば、同じ構造部会でも、^(関係)放射線同位元素協会では、800万円でマルチネリー源の遠隔操作の建物と操作装置をつくり、300万円位で東芝と生研で協同して、阪大に入ったマニピュレーターの模倣その他遠隔操作装置一切を設計製作する計画があるようである。

○、8月27日、予算打合会の学術会部^(関係)の委員の懇談会。朝永委員から、基本原則がはつきりしない現状のもとでは原子核研究者は参加できない情勢にあることを説明。

○、9月2日、原子力問題委員会常任幹事会と法規小委員会。原子力の基本方針に対する前芝案と小棟案の討議、予算打合せでの様子に対する問題。(この委員会はOff Recordであつたので、詳しく報告は出来ない)。傍聴者の感じでは、常任幹事会はこれからかなり活動してくれそうに思えて来た。

○、9月10日、内閣の利用準備調査会の綜合部会がいよいよ発足の予定である。

○、9月13日、午前、打合せ構造部会、午後、打合せ総会。

○、その後4、5日して原子力問題等がある予定。

~~~~~  
精進学校の成果や、本誌のN氏の批判、T氏の意見などを考えると、やはり皆あつまることは大切だと思います。次のコロキウム計画について意見を出してほしいと思います。(大塚)

## 雑誌発刊：

既報の雑誌計画は、結局「みずず」から出すことに決定、編輯者名、は、伏見、小森、浜田（何れも学術会評原子力問題委員会委員）で、実際の編輯会評は、森、神保、長原、大塚、服部等が中心になつて働く。談話会が成長すれば、その機関誌とするのが理想。今のところ、談話会との連絡責任者は森、神保。今年中に第1号を出すつもりで準備を進めている。

学術会評原子力問題委員会の委員の諸先生方に、われわれのニュースをお送りすることにした。これは学術会評を強くするという方針の、具体的な一つの仕事であると考えている。

MEMO

# 卒業生だより .....

## Ⅲ 氏より:

9月になつて、N.E.Cに参加した京都の人々で集つて、色々相談した結果、次のようなことを談話会としてやつて頂きたいということになりましたからお知らせします。

情報交換について、

(イ)、我々物理屋の一部では、原子核コン談会通信とか、K.J.R.通信などを見る村会があるのですが、談話会の通信としては、少くとも、核懇通信、K.J.R.にかかれています情報を一つにまとめて各地のメンバーに情報として流してほしい。(或は核懇通信~~etc.~~を少くとも一部づつ各地に配布してほしい)この場合先日原コロ通信にあった原子力小毒の報告のような形式的なものでは、その場に居合せた連中以外には、問題が追真的に感じられないように思います。各委員がどのような発言をしたか、二つの意見(積極派と反対派の)がどのような形でぶつかり合い、問題がどこにあるのかをばつきりさせないと駄目だと思ひます。最近の核懇通信の報告のようなものがのどましい。

(ロ)、各新聞誌上、各誌(内外を含めて)に載つた原子力関係の論文~~etc.~~について知らせてほしい。少くとも題目(誌名、執筆者名も)だけでも良い。

(ハ)、その他、電力経済~~etc.~~の動きとか、東京及び各地で得られた情報になるべく詳細に知らせてほしい。

今の所、これ位です。経済的な面で皆心配していますから、規則でも早く作つて会費でもとるようにはいかかですか。

## Ⅳ 氏より:

長文のお便りがありました。今度はたとえば、紀伊半島の暖い所で、その学校を是非計画してほしいということでした。